

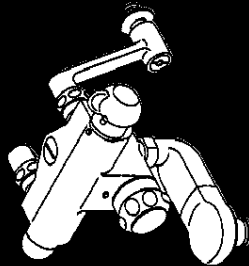
f SERIES

“自動みずとめ”
住宅用定量止水付
サーモスタット混合栓

TOTO

ご愛用のしおり

■このたびは、TOTO f SERIES 定量止水付サーモスタット混合栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。このしおりをよくお読みのうえ、正しくお使いください。



もくじ

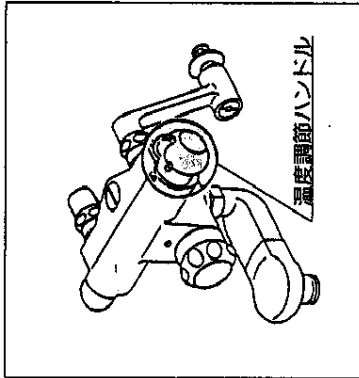
特長・各部のなまえ	1
各ハンドルの役目	2
つかいかた	3~4
使用上の注意	5~7
最大設定量の調節のしかた	8~9
温度調節のしかた	10
凍結予防のしかた	11
手入れのしかた	11
ストレーナの掃除	12
故障したときは	13~14

特長・各部のなまえ

1. 希望湯量を設定すれば浴槽に湯をためる間、何度も湯量を気にする必要がなく、湯をあふれさせる心配もありませんので節水省エネに役立ちます。
2. サーモスタット付ですので、使用中に給水・給湯圧力が変わっても吐水温度をほぼ一定に自動調整します。
3. 温度調節ハンドルの操作ひとつでお望みの温度に変えられます。
4. 湯量の制御は時間ではなく、実際に流れる湯の量で制御する機構のため、水圧の変動で湯量が変わることがほとんどありません。
5. 浴槽の大きさに合わせて必要とする湯量以上、吐水しないよう最大設定量の調節ができます。
6. 掃除用シャワー付の場合浴槽・ふるかまの循環パイプ・タイルなどの掃除にご利用いただけます。(TM297AD・TM297ADZの場合)

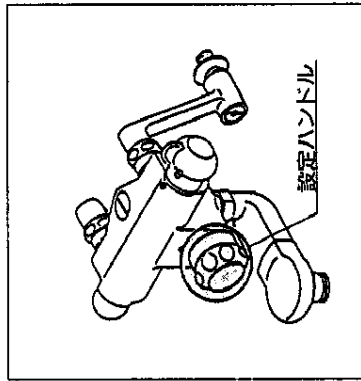
各ハンドルの役割

1. 温度調節ハンドル



吐水温度を変えるときに使用します。サーモスタット付ですので、調節後は吐水温度がほぼ一定になるように自動調整されます。なお、このハンドルで、湯水を止めることはできません。

2. 設定ハンドル



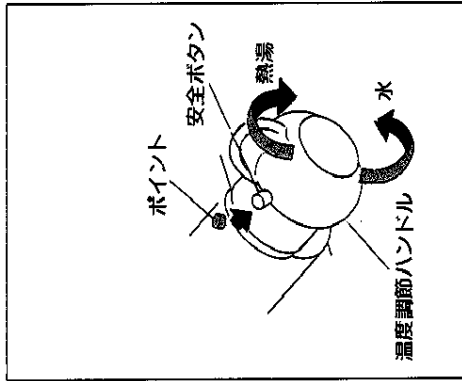
浴槽に湯をためる際、自動止水させるときに使用します。希望湯量の目盛に設定すれば、その量だけ吐水した後自動的に止水します。

一般用	TM297AD	TM297A
寒冷地用	TM297ADZ	TM297AZ

付属品	付属部品数
TM297AD TM297ADZ	1

つかいかた

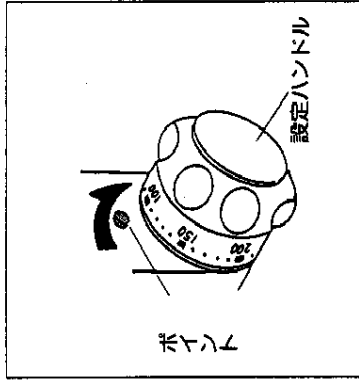
温度調節



温度調節ハンドルを回してお望みの目盛をポイントに合わせてください。数字は湯温を示す目安としてください。

温度調節ハンドルには誤って熱湯を出さないように安全ボタンが付いています。ハンドルは目盛“40”付近でロックされますのでこれより高温で吐水させたいときは、安全ボタンを押して回してください。なお、安全ボタンを押して使用したときは、ハンドルを必ず目盛“40”以下に戻しておいてください。

吐水・止水



設定ハンドルを矢印方向に回し、希望の目盛を本体のポイントに合わせてください。

120以下の目盛に設定するときは、一度120以上回してから戻して設定してください。途中で湯を止めたいときは、設定ハンドルを矢印と反対方向へ止まるまで回してください。

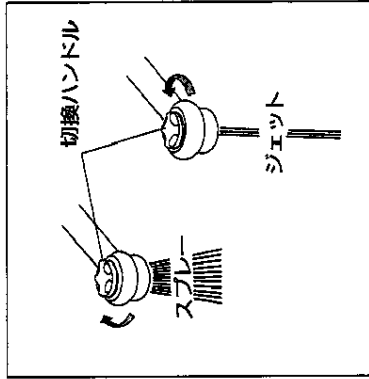
目盛の目安

浴槽の大きさ	設定目盛
小	150
中	180
大	210

ハンドルの数字がおよその湯量です。(例：150＝150ℓ)
設定位置の目安は左表のとおりですが、一度湯をためてみてお取付けの浴槽に合った湯量を確認してください。

TM297AD・TM297ADZの場合

掃除シャワーの切換

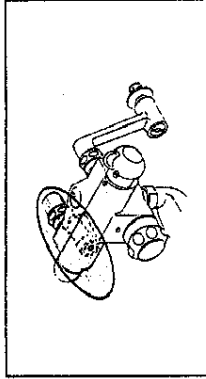


切換ハンドルを右に回すとスプレーに、左に回すとジェットに切替わります。

使用上の注意

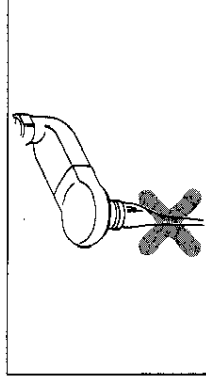
熱湯を使用しますので、やけどなどの事故がないよう、必ず次の注意事項を守ってください。

1. やけどに注意すること



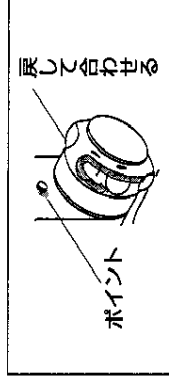
器具の左側は給湯側のため、高温になつていきます。金具の表面に直接肌をふれないようご注意ください。また、高温で吐水させた後は、しばらく水を出し、高温の残水を流しておいてください。

2. 流量を極端に絞らないこと



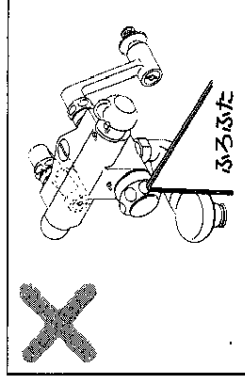
流量は止水栓で調節できませんが、余り極端に絞ると、精度が悪くなりたり自動止水しないことがありますので、目盛150（約150ℓ）のとき、少なくとも30分以内で止水するぐらいの流量でご使用ください。

3. 120以下に設定するときは、120以上回してから設定すること



湯量を120以下に設定するときは、必ず設定ハンドルを120以上に回してから希望する目盛に戻してください。（そのまま120以下の目盛に合わせると、自動止水しません。）

4. 自動吐水時は設定ハンドルの自動回転を妨げないこと

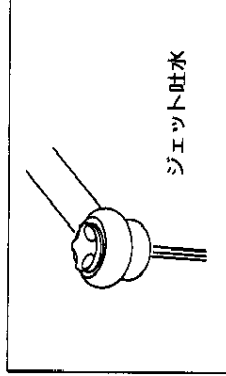


自動吐水時は設定ハンドルがゆっくりと自動回転しますので、その動きを妨げないようにしてください。動きを妨げると、湯量が多くなったり自動止水しなくなります。（ふるふたなどが設定ハンドルにあたらないようにしてください。）

TM297AD・TM297ADZの場合

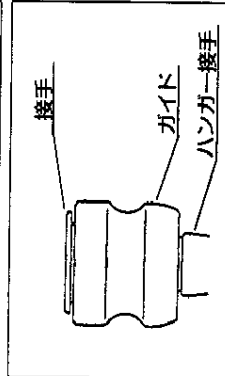
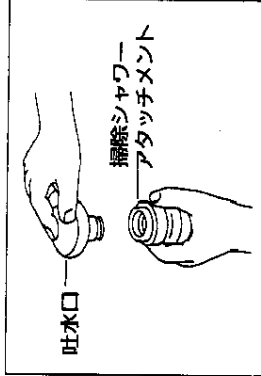
5. 掃除用シャワーのジェット側使用時は、ご注意ください。

掃除用シャワーのジェット吐水は、水勢が強いため目・耳などには絶対に当たらないでください。




6. アタッチメント部を着脱するときは、吐水口を手で支えてください。

着脱時にむりな力がかからないように吐水口を手で支えてください。なお接手がガイドより出ていないと取付できません。（接手がガイドより出ていないときはガイドをハンガー接手側へさげて接手を出してください。）



最大設定量の調節のしかた

7. 寒冷地用の水抜の方法



①設定ハンドルを目盛250以上に戻す。

②水抜コック4カ所を開く。

③温度調節ハンドルをHに合わせ、スパウトから水が出なくなってきたらさらにC側に回す。

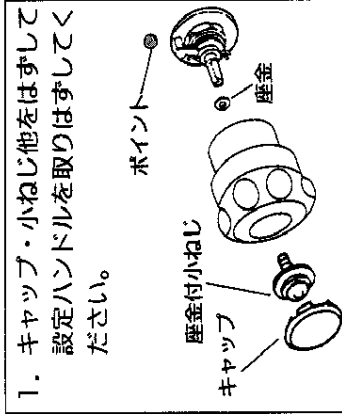
凍結のおそれがある場合は、水抜栓の操作とあわせて左図の番号順に操作し、器具内の水抜をしてください。凍結して設定ハンドルが回らない場合はぬるま湯であたたためてから操作してください。

給湯機が瞬間型の場合は次のご注意ください。

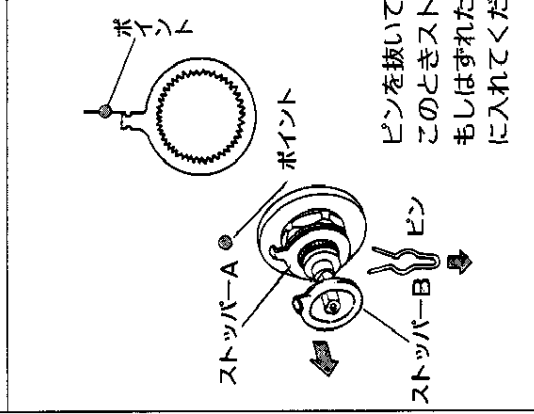
1. 吐水量が少ないと給湯機が着火しないことがありますのでハンドルはできるだけ全開で使用ください。
2. 給水圧力が高く、吐水量が多すぎる場合は設定ハンドルで調節を行ってください。(設定ハンドルを全開にすると吐水量が多すぎる場合は、止水栓であらかじめ流量調節を行ってください。)
3. 混合水栓から吐水する温度より、10°C以上高い温水を供給するよう給湯機側の温度を設定してください。
4. 次の場合は、給湯機が着火しにくくなる場合があります。その場合は、給湯機の設定温度（能力切替式の場合は能力）を少し下げてください。
 - ・給水圧力が低いとき
 - ・水温が高いとき

この水栓の設定ハンドルは最大吐水量をあらかじめ約250ℓ（目盛250）に設定していますが、最大量300ℓ（目盛300）まで吐水量を設定できます。その設定変更については次の要領で調節してください。

なお調節をする前に適量を調べ、設定ハンドルの目盛はおおよそ湯量（ℓ）を示しますので、浴槽に湯をためてみることで適量がわかります。



1. キャップ・小ねじ他をはずして設定ハンドルを取りはずしてください。



2. ストップバーAの端面①と、ストップバーBの数字を合わせてください。下図は約200ℓに合わせたときを示します。ストップバーBを120以下にセットしないでください。自動止水しなくなります。

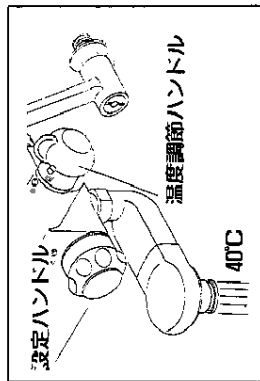
ピンを抜いて、ストップバーBをはずしてください。このときストップバーAははずさないでください。もしはずれた場合は、ポイントに対して図のように入れてください。

温度調節のしかた

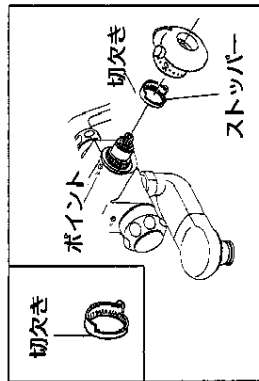
目盛どおりの温度が出なくなかった場合は、次の要領で温度調節をしてください。

●調節する前に

- (a) ストレーナーのごみづまりはないか確かめる。(P.12参照)
- (b) 止水栓が全開しているか確かめる。(P.12参照)
- (c) 十分な温度(使用する温度より10°C以上)のお湯がきいているか確かめる。湯温が低い場合は、給湯機の温度設定を上げてください。

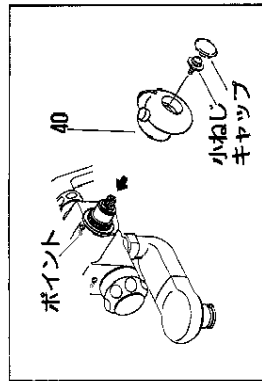


設定ハンドルを開き、温度調節ハンドルのダイヤル目盛に関係なく40°Cの湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回してください。



温度調節ハンドルが回らないように注意して温度調整ハンドルを引き抜いてください。

温度調節ハンドルを抜くとき、ストッパーがはずれたらポイントに切欠きを合わせてはめてください。



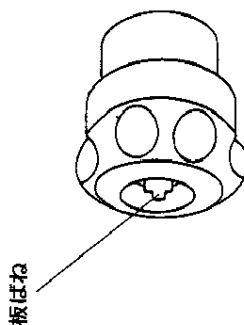
温度調節ハンドルの“40”の文字とポイントに合わせてハンドルをはめ、小ねじで固定しキャップをはめる。

5. このページ下段に添付している適量ラベルを設定量の目盛の上に下図のように貼りつけてください。



適量ラベルを貼っておくとご使用になる方が容易に設定できます。貼るときは、ハンドル表面の汚れや水分をよくふきとってください。

4. ストッパーのセットが終了したらピンを入れ、設定ハンドルを取りはずしと逆の手順で元の位置におさめてください。このとき、座金を忘れずと設定ハンドルが回らなくなることがありますので注意してください。また、設定ハンドルをおさめるとき板ばねが出てくることがありますのでそのときはドライバーなどで元どおりに押し込んでください。



最大設定量の調節をしない場合でも、浴槽に水をためるとき合わせる目盛の上に適量ラベルを貼っておくと便利です。

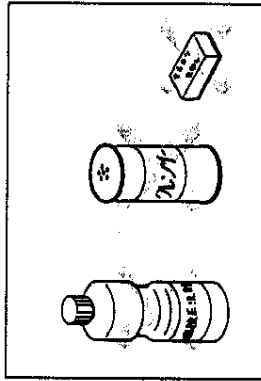
適量ラベル

凍結予防のしかた

凍結のおそれがある場合は、同封の「水垢方法」のラベルにしたがって器具内の水抜きをしてください。なお、ラベルは器具の近くに張りつけてください。

手入れのしかた

いつまでも美しさを保つために柔らかい布でみがき、めっきされたところはときどきシンナー油やカーワックスなどをしませた布でみがいてください。ただし樹脂部（ハンドル）に付着すると光沢を失いますので、付着しないよう十分注意してください。



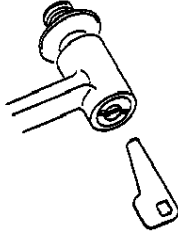
クレンザー・みがき粉などの粗い粒子を含む洗剤およびナイロンたわしなどはめっき面を傷つけますので使用しないでください。また酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないでください。まちがって使用したときはすぐに水洗いしてください。

※カラ塗装品及びパールブライトめっきは、同梱の取扱説明書をご覧ください。

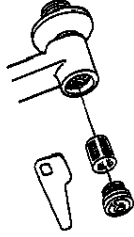
ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水量が少なくなったり、水又は熱湯が出なくなるなど十分な機能が発揮されなくなりましたのでときどき次の要領でストレーナを掃除してください。

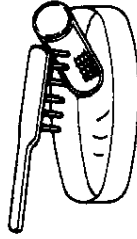
1. 付属の開閉工具で止水栓を閉じてください。



2. 開閉工具を溝にし込み、ストレーナをゆるめてください。



3. ストレーナを取り出し、ストレーナの網目につまったごみをブラシなどで取り除いてください。



故障したときは

故障の修理はお取付工事店にご依頼ください。

なおご不明な点がございましたら、もよりの当社の支社、営業所にご相談ください。

●修理を依頼される前に

簡単な故障はご家庭でも直せますので修理を依頼される前に次の点検をしてください。

●故障内容

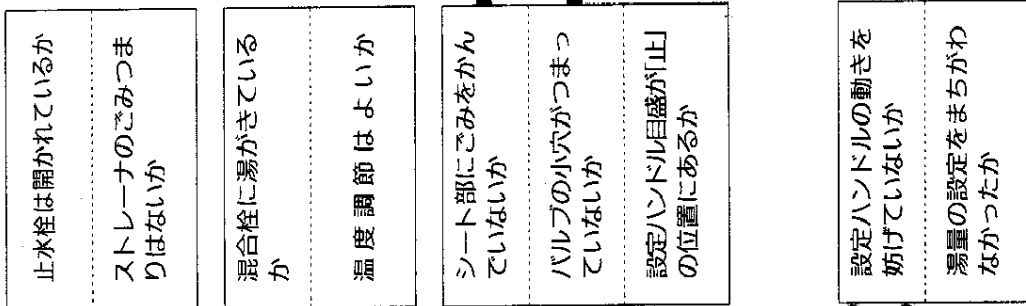
流量が少ない

高温又は低温しか出ない

目盛と湯の温度がちがう

湯水が止まらない

湯量が大きく狂う



自動バルブの掃除のしかた

1		水側・湯側の止水栓を閉め、湯水を止める。	5		シートパッキンにごみかみがないか調べる。
2		設定ハンドルを止まるまで矢印方向へ回す。	6		小穴がつかまっているら細い針金で掃除する。(荷札の針金など)
3		バルブカバーを開ける。	7		バルブ部を水洗いしたのち、元どおりにおさめ、バルブカバーを閉める。
4		バルブ部を取出す。	8		水側・湯側の止水栓を開く。